

ELR2008 福岡プログラム

開催期間：平成 20 年 9 月 20 日（土）～23 日（祝）

会 場：福岡大学（福岡市城南区）

主 催：日本緑化工学会 日本景観生態学会 応用生態工学会

協 賛：福岡大学

後 援：国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所

《三学会合同大会開催の趣旨》

応用生態工学会（E&CE）、日本景観生態学会（L）、日本緑化工学会（R）はいずれも「健全な生態系の持続・修復を視野にいたした国土のプランニング」を学会・行政・市民の連携のもとに進めようとする国内有数の応用系学会です。この3学会はこれまで、互いに得意とする異なった場を主要なサイトとして研究をおこなってきましたが、「森・川・海」といわれるように地球上のすべての生態系はつながっており、つながりのなかでしか有効な目標設定と課題達成がおこなえないことは自明の理であります。各学会で学会間連携の動きがほぼ同時的・自律的にわきあがったいま、その実現の第1歩としてELR2008福岡を開催するものです。

《 大 会 日 程 》

9月20日（土）

- | | | |
|----------------------|-------------|---------|
| ・合同大会趣旨説明（各口頭発表会場にて） | 12：50～13：00 | A棟2F |
| ・口頭発表 | 13：00～16：00 | A棟2F |
| ・ポスター発表 | 16：00～18：00 | A棟6F、7F |
| ・研究集会・自由集会 | 18：00～20：00 | 8号館 |
| ・企業展示 | 13：00～18：00 | A棟2F、6F |

9月21日（日）

- | | | |
|---|-------------|-----------|
| ・ポスター発表 | 10：00～12：00 | A棟6F、7F |
| ・総会
（総会会場は、緑化工：A201、景観生態：A202、応用生態：A203） | 13：00～14：00 | A棟2F |
| ・口頭発表 | 14：00～18：00 | A棟2F |
| ・企業展示 | 10：00～18：00 | A棟2F、6F |
| ・懇親会 | 19：00～21：00 | 西鉄グランドホテル |

9月22日（月）

- | | | |
|-----------------------|-------------|------------|
| ・公開シンポジウム「自然再生の課題と展望」 | 9：00～12：00 | 8号館ホール（無料） |
| ・エクスカージョン「自然再生の現地見学」 | 12：30～18：30 | （無料、別途弁当代） |

9月23日（祝）

- | | | |
|----------------------|--------|---------|
| ・エクスカージョン「自然再生の現地見学」 | ～15：00 | 宿泊コースのみ |
|----------------------|--------|---------|

※ 公開シンポジウムとエクスカージョンは、河川整備基金の助成を受けて実施しています。

《受付》

- 9月20日(土)は、11:00から受付を開始します。20日(土)の受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- 受付は文系センター棟1Fプラザ50で行います(当日は大学正門から順路を示しています)。名札をお渡ししますので、会場では必ず名札を付けてください。
- 大会参加費は一般5,000円(当日参加6,000円)、学生3,000円、非学会員8,000円、懇親会参加費は3,000円です。費用には講演要旨集が含まれます。大会運営をスムーズに行うため、事前申込及び振込にご協力ください。(発表申込は締め切りしましたが、参加は受付中です)
- 公開シンポジウム及びエクスカージョンのみに参加される方は無料です。申込だけ事前に必ず行ってください。
- 全ての申込先は、ELR2008福岡実行委員会(九大島谷研究室 elr2008@civil.kyushu-u.ac.jp)
参加費振込先:福岡銀行 姪浜支店 普通 口座番号 1995355 島谷幸宏(シマタニユキヒロ)

《口頭発表》

- 口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OSはWindowsXP、プレゼンテーションソフトはPowerPoint2003です。mac、PowerPoint2007(ファイルの互換性が一部ありません)あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前にPowerPoint2003で動作するか確認を行ってください。また備え付けのパソコンは通常のWindowsXP日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- パワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、受付に提出してください。ファイルの容量は100MB以下とし、ウイルスに感染していないことを確認のうえ、USBメモリ、CD-Rで持参してください(MO、DVD、CD-RWは不可)。提出期限は以下のとおりです。

20日(土)発表の方:9月20日(土)12:00まで

21日(日)発表の方:9月21日(日)12:00まで

※ 交通手段等の関係上、提出期限に間に合わない方は、ご連絡のうえ事前にファイルをお送りください。(連絡先:実行委員会原田 k-harada@wjec.co.jp)

- 発表時間は発表12分、質疑応答3分の合計15分です。1鈴:10分、2鈴:12分、3鈴:14分30秒です。時間厳守にご協力ください。
- パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で行いたい方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表》

- ポスター発表の会場はA棟の6Fおよび7Fフロアです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ポスターは横90cm、縦180cm以内のサイズで作製して下さい。ただし縦のサイズは床からのパネルの高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします(A0判841×1189mmを推奨します)。
- ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けて下さい。
- ポスターの掲示は各自の発表日のみとし、20日(土)は11:00~19:00の間、21日(日)は8:00~16:00の間は掲示できます。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分いたします。
- 20日(土)は16:00~18:00、21日(日)は10:00~12:00が発表時間です。ポスター発表番号末尾の数字(例:P●-●-21ならば21)が奇数の発表者は前半の1時間に、偶数のポスター番号の発表者

は後半の1時間に、各自のポスターの前で発表を行って下さい。

- ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けておりません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープは会場に準備しています。指示棒等は各自持参してください。
- PC等の電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。
- ELR2008 福岡ではポスター賞を設けました。研究の内容、ポスターのデザイン、プレゼンテーションのわかりやすさ等でポスター賞を選定いたします。ポスター賞に選定された方は、21日(日)の懇親会で表彰いたします。

《総会》

- 日時：9月21日(日) 13:00～(三学会とも同じ時間です)
- 日本緑化工学会：A201号室、日本景観生態学会：A202号室、応用生態工学会：A203号室 です。

《懇親会》

- 日時：9月21日(日) 19:00～21:00
- 会場：西鉄グランドホテル(福岡市中央区大名 2-6-60 TEL：092-771-7171)
- 会場までのアクセス：地下鉄天神駅(地下鉄七隈線天神南駅から徒歩8分) 2番出口から徒歩1分
- 懇親会は事前申込が必要です。(事前申込先：九大島谷研究室 elr2008@civil.kyushu-u.ac.jp)
- 懇親会中にポスター賞の表彰を行います。

《企業等展示》

20日(土)及び21日(日)は、A棟2F及び6Fにおいて企業展示及び書籍販売を行っております。発表の合間にご覧ください。

企業・団体名	展示場所(予定)	展示内容
日本特殊緑化協会	A棟6F	自然回復緑化技術・水辺の植生復元技術・外来種対策技術
株式会社 ソキア・トプコン	A棟2F	野外調査に利用できるGPS機器及びGISデータ収集ソリューションの展示
エスペックミック 株式会社	A棟2F	①チガヤ草地の創出方法の提案(堤防・法面等の在来種化への取組) ②都市河川における在来植生の創出
NPO法人 日本バーク堆肥協会	A棟2F	バーク堆肥における成分分析と幼植物検定法による品質管理
さくま書店	A棟6F	専門書籍の販売

《エクスカージョン》

- 宿泊コースは定員に達したため締め切りました。参加費等の詳細は実行委員より連絡いたします。
- 日帰りコースはまだ定員に余裕があります。同封のチラシをご覧ください。
- 日帰りコース、宿泊コースともに、公開シンポジウム終了後、集合場所の案内を行います。(集合場所は福岡大学構内です)
- 福岡空港への帰着時間はあくまでも目安です。当日の交通状況によっては遅延等が生じる可能性があります。
- エクスカージョンは河川整備基金の助成を受けて実施しています。

《公開シンポジウム「自然再生の課題と展望」》

今年、緑化工学会、景観生態学会、応用生態工学会の合同大会であるため、3学会の共通の課題である自然再生をテーマに、各学会からの講演とパネルディスカッションを予定しています。会場からの意見も受ける予定です。

・日時：平成20年9月22日（月） 9:00～12:00

・講演

「竹林・里山管理に関する研究と課題」（仮題）

柴田 昌三（京都大学大学院地球環境学堂）

「トキの野生復帰を実現可能にする自然再生の手続き」

関島 恒夫（新潟大学自然科学研究科）

「丹沢山系における自然再生の試みと課題」

山根 正伸（神奈川県自然環境保全センター研究部）

「自然再生の社会的課題」

桑子 敏雄（東京工業大学大学院社会理工学研究科）

・パネルディスカッション

司 会：島谷 幸宏（ELR2008福岡実行委員長、九州大学）

パネリスト：桑子 敏雄（東京工業大学）

小林 達明（日本緑化工学会、千葉大学）

鎌田 磨人（日本景観生態学会、徳島大学）

江崎 保男（応用生態工学会、兵庫県立大学）

- ・参加は無料ですが、資料準備がありますので事前にお申込ください。
- ・本シンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施しています。

《その他》

- ・日本緑化工学会の講演要旨集（ELR2008 福岡の要旨集とは異なります）を受付にて販売しております。
- ・昼食は、20日（土）、21日（日）とも大学内の食堂が利用できます。なお、発表会場は食事禁止です。
- ・喫煙は指定の場所で行ってください。（屋外に数カ所設置しています）
- ・航空券・宿の手配について、旅行代理店（西鉄旅行）からサポートを受けられることになりました。割安になる区間もありますので、ご覧ください。<http://www.nishitetsutranselr2008.jp/niccs/elr2008/>

《研究集会・自由集会》

緑化工学会、景観生態学会から、集会在企画されています。集会は所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。

日時：9月20日（土）18:00～20:00

場所：8号館（当日は開催場所の案内を表示します）

●「比較景観生態学手法にもとづく里山評価システムの開発」

企画：日本景観生態学会 夏原由博（京大院・地球環境学堂）

景観生態学会のメンバーを中心として、科学研究費補助金による研究課題「比較景観生態学手法にもとづく里山評価システムの開発」を進めようとしている。

これは、気候帯・植生帯といった自然環境条件や社会環境条件が異なる地域の里山を対象として、それぞれの研究者が、1)共通の手法を用いてその構造や変化を明らかにし、2)その結果を持ち寄って相互検討することで、里山の構造の変化やその動因を比較検討し、地域間の異同を確認すること、そして、3)国内の里山の現状

評価を行うための手法を提案することを目的としている。本自由集会では、研究者間でのコンセンサスを深めるため、研究の進め方や比較手法、また、スケジュールについて議論する。

また、このプロジェクトに先行して進められている「里山里海サブグローバルアセスメント」の動向について、情報を共有する機会とする。

日本の里山の現状を把握・評価し、そして、その保全・修復を行っていくために景観生態学がどのように貢献できるのかについて、広く意見交換を行いたい。

景観生態学会の会員・非会員にかかわらず、多くの方にご参加いただきたい。

●「緑化植物の取り扱いについての新しい動き」

企画：日本緑化工学会生物多様性緑化研究部会 倉本宣（部会長、明治大・農）

現代は生物多様性の時代を迎えている。その生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱いについての新しい動きを話題提供していただき、それに基づいて今後の生物多様性緑化の方向性について議論したい。具体的には九州における新しい手法の緑化の具体的事例として、九州大学の伊都新キャンパスの森林移植（薛孝夫氏 交渉中）を取り上げる。次に、新しいのり面緑化工の取り扱いについては「道路土工指針改訂作業におけるのり面緑化工の取り扱い」（松江正彦氏）と緑化植物の取り扱いを中心としたアプローチについては「緑化植物に対する総合的な取組」（則久雅司氏）の報告をしていただく。この研究集会を通して、最新の事例と最近の行政の動きを把握し、ともに次のステップを考えたい。

話題提供者：薛孝夫、松江正彦、則久雅司（予定）

●「法面の自然回復緑化の現場をとりまく課題と今後の展望（Ⅱ）」

—これからの植生工の検査基準を考える—

企画：日本緑化工学会斜面緑化研究部会 福永健司（部会長、東京農大）

斜面緑化研究部会では、日本緑化工学会による「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱いに方に関する提言」（2002）を受けて、生物多様性に配慮した法面の自然回復緑化を実務として設計・施工していく上で必要なポイントを「のり面における自然回復緑化の基本的な考え方のとりまとめ」（2004）として発表した。その後、外来生物法や第3次生物多様性国家戦略などの追い風を受けて、自然回復緑化が社会に広く受け入れられる素地は固まってきたように見えたが、法面緑化の現場では外来草本類やマメ科低木類による急速緑化が依然として続いており、4省庁の検討結果である「調査対象種の取り扱い方針（案）」（2007）に示された“生物多様性に配慮した緑化工法”の採用機会は非常に限られているのが実情となっている。本研究集会では、こうした事態を招いている原因のひとつとして、現行の植生工の検査基準が関係しているのではないかと考え、法面の自然回復緑化を推進する上で必要な検査基準とはどのようなものなのか、参加者の皆様とともに考えたい。

話題提供者：中野裕司、西澤睦博、山田守、吉田寛、福永健司（予定）

●「緑と人の健康とのかかわり ～みどり（植物）とのかかわりはなぜ健康によいか？～」

企画：日本緑化工学会 緑・健康研究部会 岩崎寛（部会長、千葉大院・園芸）、山本聡（兵庫県大／兵庫県淡路景観園芸学校）、飯島健太郎（桐蔭横浜大・医用工）、今西純一（京大院・地球環境学堂）

近年、緑と健康に関する研究が注目され、緑地の新たな機能として期待されていますが、人を対象とする研究では実験データや医学的エビデンスの積み重ねがまだまだ足りないといえます。また、その効果に対する理解も十分ではないと考えられます。緑・健康研究部会では、この課題に対する検討を進めており、昨年度は医学的見知から緑の効果について事例を交えて検討を行いました。今年度は、基調講演として園芸療法に詳しい東京農業大学の松尾英輔先生をお招きし、「みどり（植物）とのかかわりはなぜ健康によいか？」といった視点から、緑の療法的利用だけでなく健康・福祉に関わる利用と効果の関係についてお話し頂きます。その上で、緑・健康研究部会メンバーおよび参加者による討論を予定しています。

話題提供者：松尾英輔（予定）

口頭発表 9月20日(土) ※セッションの()内は座長

時間	A201 会場	A202 会場	A203 会場
12:50	合同大会の趣旨説明 (日本景観生態学会幹事長 鎌田磨人)	合同大会の趣旨説明 (応用生態工学会幹事長 江崎保男)	合同大会の趣旨説明 (日本緑化工学会副会長 藤原宣夫)
	環境修復 1 (三橋弘宗・兵庫県立大)	水系ネットワーク (知花武佳・東大)	緑化基盤 (高橋輝昌・千葉大)
13:00	01-1-1 沖縄島北部地域河川における水圏生物の棲息環境再生技術に関する基礎研究 ○宮良工、長井隆、小笠原敬(財)沖縄県環境科学セ、赤松良久、神谷大介(琉球大・工)	01-2-1 農業用取水堰の改良が河川性魚類の移動や分布に及ぼす影響 ○山下奉海(九大・工)・河口洋一(九大院・工)・谷口義則(名城大・理工)・鹿野雄一(九大院・工)・田中亘(九大・工)・島谷幸宏(九大院・工)・齊藤慶・石間妙子・大石麻美・関島恒夫(新潟大・自然科学)	01-3-1 セメントを混合した連続繊維補強土工の生育基盤としての適用性 ○堀江直樹、石垣幸整(日特建設機)、福永健司(東京農業大学)
13:15	01-1-2 都市近郊農業取水堰周辺の河床低下状況と急勾配魚道の開発 ○常住直人、高木強治(農村工学研究所)	01-2-2 北海道尻別川水系における魚類および水生生物の分布に関する研究—河川横断工作物・魚道の設置と水系内でのサクラマス分布状況— ○宮腰靖之・ト部浩一(道立水産孵化場)、高田雅之(北海道環境科学研究セ)、三島啓雄(北海道工大)、田中慶子・畠山保弘・松枝直一(北海道後志支庁)	01-3-2 屋上緑化植物セダム類(サカサマンネグサ)の補植拡充方法に関する研究 ○石田さちほ、勝野武彦、黒田貴綱(日大・生物資源科学)
13:30	01-1-3 砂鉄川ショートカット河道における魚類群集保全のための水辺域修復工法の導入と効果 ○佐川志朗、萱場祐一(独)土木研究所、田代喬(名大・工)、秋野淳一(共和コンクリート工業)、真田誠至、根岸淳二郎、青木繁幸(独)土木研究所自然共生研究セ、大森徹治(国土交通省中部技術事務所)	01-2-3 北海道尻別川水系における魚類および水生生物の分布に関する研究—小規模工作物群がサクラマスの産卵週上に与える影響— ○ト部浩一、下田和孝、川村洋司、宮腰靖之(北海道立水産孵化場)、高田雅之(北海道環境科学研究セ)、三島啓雄(北海道工大)	01-3-3 エチゼンクラゲ類を活用した緑化資材の開発 ○江崎次夫、河野修一、枝重有祐(愛媛大・農)、車斗松、全権雨(江原大学山形環境科学大学)
13:45	01-1-4 河口域沿岸の断面形状と塩生植物の生育・繁殖の関係 ○荒木悟、國井秀伸(島根大・汽水域研)、陶山俊一(総合技研(株))	01-2-4 北海道尻別川水系における魚類および水生生物の分布に関する研究—水生生物の生息環境評価のための空間パラメータ構築の試み— ○高田雅之、齋庄輔(北海道環境科学研究セ)、宮腰靖之、ト部浩一(北海道立水産孵化場)、三島啓雄(北海道工業大)	01-3-4 不透水プレートと自然土を用いた被覆資材による雑草防除の研究 ○成瀬敏一(株)東京ランドスケープ研究所、現(株)ウイツコミュニティ)、梶川昭則(東邦レオ(株))
	環境修復 2 (藤原道郎・兵庫県立大)	動物生態 (荒井秋晴・九州歯大)	樹林 1 (座長未定)
14:00	01-1-5 離岸堤によって再生した海浜における海浜植物の分布特性 ○楠瀬雄三(株)ニュージェック、石川慎吾(高知大・理)	01-2-5 国指定天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」における環境整備と個体の飛来状況 ○本村健(中野市歴史民俗資料館)、常田英士(十三崖チョウゲンボウ応援団)	01-3-5 国営昭和記念公園「浮游の庭」特殊空間緑化による温熱環境改善及び雨水流出遅延効果の検証 ○手代木純・榎野良明・山口亜希子・今井一隆・半田真理子(財)都市緑化技術開発機構)
14:15	01-1-6 調整池の植生基盤に導入されたタコノアシ(Penthorum chinense Pursh)の経年的変化 ○米村惣太郎(清水建設(株))、井原寛人(株)地域環境計画)	01-2-6 イヌワシ生息適地解析の砂防事業への活用 長井義樹・小竹利明(国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所)・渡邊敬史・千葉将敏(株)建設技術研究所)・中野晋(環境設計(株))	01-3-6 千葉県松戸市の街路樹の生育と植栽基盤の理化学的性質の関係 ○高橋輝昌(千葉大院・園芸)、及川尚美(千葉大・園芸、現江東区役所)、岡田悠(千葉大園芸、現ドクターリセラ(株))、小林達明(千葉大院・園芸)
14:30	01-1-7 亜熱帯沖縄島における湿地植物ピオトープ創出の事例紹介 その1～移植検討のための調査と移植計画の作成～ ○山本淳一郎、伊佐義人(株)沖縄環境分析セ、桐澤秀明、須田勝(倉浜衛生施設組合)、渡久地博之(株)沖縄環境分析セ、仲田栄二(沖縄国際大)	01-2-7 テン Martes melampus を生態系の上位性注目種とした場合の調査手法の開発 その2—簡易的な行動圏の推定方法— ○田悟和巳、松村弘、中村匡聡(いであ(株))、荒井秋晴(九州歯科大・総合教育)、足立高行(応用生態研)	01-3-7 スギ・ヒノキ人工林における土壌理化学性による森林健全度評価の試み ○田中賢治、朝日伸彦、杉本弘道(国土防災技術(株))、長山泰秀(島根大・生物資源科学)
14:45	01-1-8 藻食魚の採食と堆砂による被食回避を活用した1年生大型海藻アカモク「畑」の造成 ○新井章吾(海中景観研究所)、中山恭彦(広島大)、野田幹雄(海中景観研究所)、村瀬昇(水産大)、中越信和(広島大)	01-2-8 大阪南部の小規模海浜で優占するセイヨウミツバチのハマヒルガオにおける相粉効率 ○楠瀬雄三(株)ニュージェック)、村上健太郎(きしわだ自然資料館)、伊東憲正(株)地域環境計画)、遠藤知二(神戸女学院大・人間科学)、中上喜史(株)ニュージェック)、長谷川匡弘(パンフィックコンサルタンツ(株))	01-3-8 孤立した照葉樹林における都市化の影響 ○窪山恵美、藤原一繪(横浜国大・環境情報)
	河川の物理環境と生物との関係 1 (萱場祐一・土木研究所)	景観・デザイン (今西亜友美・京大)	樹林 2 (伊藤哲・宮崎大)
15:00	01-1-9 ダム下流の河床の露盤化が河川生物群集に及ぼす影響とその対処方法 ○中村智幸(独)水産総合研究セ)	01-2-9 京阪奈丘陵における、詳細スケールでの二次的自然の配置パターンと鳥類の関係 ○中津弘・前中久行(大阪府大院・農学生命科学)・夏原由博(京大院・地球環境学堂)	01-3-9 爺ヶ岳におけるハイマツの枯損状況とその要因 ○妹尾洋一、高橋和也、鈴木洋一郎(応用地質(株))
15:15	01-1-10 山地河道における河床露岩化と底生動物生息場環境に関する研究 ○小林草平・中西哲・天野邦彦(独)土木研究所河川生態チーム)	01-2-10 生物音声識別装置「ききみみずきん」を使った地域調査 ○大庭照代(千葉県中央博)	01-3-10 照葉樹環境保全林における林分動態について ○宮内大策(横浜国大・環境情報)、藤原一繪(横浜国大・環境情報)
15:30	01-1-11 ダム下流の岩盤河道と自然河道における魚類群集とその生息場の比較—一様が創り出す多様な生息場— ○瀬野太郎(北大院・農学院)、永山滋也、中村太士(北大院・農)	01-2-11 京都を事例とした景観評価実験と眼球運動の測定による好ましい屋上緑化形態の検討 ○村上大輔、田中健(株)ウッドワン)、下村孝(京都府大・人間環境)	01-3-11 地図情報を用いた広葉樹林化の可能性予測とデータソースの有効性 ○山川博美(鹿児島大院・連農、学振特別研究員)、佐藤妙(宮崎大院・農)、伊藤哲(宮崎大・農)、中尾登志雄(宮崎大・農)、島田正浩(宮崎市教育委員会)
15:45		01-2-12 都市において人工ピオトープをデザインする意味 ○伊東啓太郎(九州工大・工)・Ingunn Fjortoft(Telemark University, Norway)・鎌田磨人(徳島大院・工)・藤原勝紀(放送大学京都教育セ)	01-3-12 広域の資源管理を目的とした植物生態系の種類数—面積曲線によるランドスケープの認識 ○森本淳子、小野貴司、中村太士(北大院・農)

口頭発表 9月21日(日) ※セッションの()内は座長

時間	A201 会場	A202 会場	A203 会場
	生息場・生育場評価1 (西廣淳・東大)	土砂動態と生物との関係(中村圭吾・土木研究所)	緑化1 (谷口伸二・日本植生(株))
14:00	02-1-1 土岐川・庄内川流域における種多様性ポテンシャルおよび湧水湿地指標種の生息適地の評価 ○横田樹広、小田原卓郎、米村惣太郎、那須守(清水建設(株))、南基泰、上野薫、愛知真木子、寺井久慈(中部大・応用生物)	02-2-1 還元土砂の砂上への堆積が草原化・樹木の成長の促進に与える影響 ○坂本健太郎、関根秀明((株)建設技術研究所)、川嶋崇之、清憲三、小田切宗一郎、浅枝隆(埼玉大院)	02-3-1 生物多様性保全に配慮した送電線建設跡地復元計画(全体計画) ○高松進(東京電力(株)送電建設)、佐藤伸彦((財)埼玉県生態系保護協会)、村岡政行(東電設計(株))
14:15	02-1-2 氾濫原の景観変化と生態的機能の応答—ワンド環境劣化の経年変化とその機構— ○根岸淳二郎、佐川志朗、萱場祐一、真田誠至(土木研究所)、秋野淳一((株)共和コンクリート工業)、青木繁幸(土木研究所)、大森徹治(国交省中部技術事務所)、久米学、宮下哲也(土木研究所)	02-2-2 矢作川中流における底生動物の遷移 ○内田臣一(愛知工大・土木)	02-3-2 生物多様性保全に配慮した送電線建設跡地復元計画(スキポット苗緑化工) ○中川貴洋・高松進(東京電力(株)送電建設)、大坪恒美(株東植)
14:30	02-1-3 沖縄島北部河川におけるリュウキュウアユの生息場評価 ○赤松良久、汐口慶、古澤広隆、神谷大介(琉球大・工)、宮良工((財)沖縄県環境科学セ)	02-2-3 多摩川永田地区における土砂投入が附着藻類に及ぼす影響 ○皆川朋子((独)土木研究所)、福嶋悟(横浜市)、(独)土木研究所)、萱場祐一((独)土木研究所)	02-3-3 同一のり面に敷設した植物誘導マット工および植生マット工の施工事例 ○中菊聖弥(日本植生(株))、今井克己(岐阜県恵那市役所)・島崎雅弘((株)ライム)・谷口伸二(日本植生(株))
14:45	02-1-4 環境指標のための九州の魚類セグメントエコロジー区分 ○島谷幸幸(九大院・工)、敵島伶(九大・工)、中島淳(九大院・工)	02-2-4 河川における水生生物による土砂動態変化:生態系管理に向けたその工学的評価 ○田代喬、辻本哲郎(名大院・工)	02-3-4 人工林内における誘導型マット工(自然侵入促進工)の施工事例 ○寺本匡寛、石田和宏(日新産業(株))、木村正信(岐阜大・応用生物科学)、肥後睦輝(岐阜大・地域科学)
	生息場・生育場評価2 (夏原由博・京大)	ダムと生物との関係(内田朝子・矢作川研)	緑化2 (古澤仁美・森林総研)
15:00	02-1-5 内湾度を定量化する方法 ○三橋弘宗(兵庫県大)、荒木田葉月、竹村紫苑、鎌田磨人(徳島大院・先端技術科学教育)	02-2-5 大気暴露によるダム下流河川の糸状緑藻類(アオミドロ)対策の効果 ○福嶋悟(横浜市環境科学研究所)、皆川朋子((独)土木研究所)	02-3-5 資源循環型緑化工法と苗木植栽工を組合わせた法面樹林化実験の追跡調査 ○北山敬三(SEGリサイクル研究会)、サンヨー緑化産業(株)、山田守(SPTec・YAMADA)
15:15	02-1-6 内湾度からみたシギ・チドリ類の渡来地の評価 ○荒木田葉月(NPO法人パードリサーチ)、三橋弘宗(兵庫県大)、鎌田磨人(徳島大院・ソシオテクノサイエンス)	02-2-6 ダム湖の水位低下操作を利用した外来魚の防除手法の効果 ○大杉奉功、船橋昇治((財)ダム水源地環境整備セ)、熊澤一正、浅見和弘(応用地質(株))、半谷和彦、中沢重一(国交省三春ダム)	02-3-6 中国半乾燥地における高速道路法面緑化の施工例 ○顧衛、齊藤誠、陶岩(中国北京師範大学資源学院)、陶楊(中国河北科信岩土地面生態工程有限公司)、山田守(SPTec・YAMADA)
15:30	02-1-7 内湾度を用いたマングローブ林の潜在的生育地の推定 ○竹村紫苑、荒木田葉月(徳島大院・建設創造システム工)、三橋弘宗(兵庫県大・自環研)、鎌田磨人(徳島大院・ソシオテクノサイエンス)	02-2-7 ダム下流域の堆積物に占める有機物量の変化が水生生物に与える影響 ○早川和菜、内田博陽、永野友章、林崎健一、朝日田卓(北里大・海洋生命科学)	02-3-7 森林表土の効率的な採取技術と利用による自然回復緑化 ○田中淳、堀江直樹(日特建設(株))
15:45	02-1-8 TOPOGRAPHIC WATERSHEDS AS A FRAMEWORK FOR THE NEW JAPANESE REGIONAL ADMINISTRATION UNITS FOR ECOSYSTEM MANAGEMENT ○CHEN Siew Fong、森本幸裕(京大院・地球環境学舎)、増澤直((株)地域環境計画)	02-2-8 通砂を実施しているダムの下流河川における水際の物理環境変化について ○関根秀明・坂本健太郎((株)建設技術研究所)・浅枝隆(埼玉大)	02-3-8 ササのセル成形苗生産供給システムと道路法面での育成経過 ○錦織正智、野中俊一、尾崎浩司(道立林業試験場)、渡辺正志、戸井利博(北海道グリーン工業(株))、市川裕章(㈱赤平花卉園芸振興公社)、桑折智久(美瑛市農業協同組合)
	水質 (國井秀信・島根大)	海域、汽水域 (座長未定)	緑化3 (入山義久・雪印種苗(株))
16:00	02-1-9 釧路湿原南西部における堤防の設置が地下水流動・化学性に及ぼす影響 ○山田浩之、川口哲平(北大院・農)、中村隆俊(東京農大・生物産業、矢部和夫(札幌工大・デザイン)、河内邦夫(室蘭工大・工)	02-2-9 塩分が類似する近接した二河川におけるホトトギスガイの分布状況 ○山室真澄(東大新領域)、平塚純一(島根野生研)、石飛裕(島根保環研)、浅枝隆(埼玉大理工)	02-3-9 滝沢ダムにおける郷土種を用いた植生復元の取り組み(Ⅱ) ○高橋陽一・塩川達夫((独)水資源機構)、藤田大知(応用地質(株))
16:15	02-1-10 土地利用の変化に伴う日本の河川水質変化 ○田林雄(東大院・新領域創成科学)	02-2-10 博多湾和白干潟におけるアサリ個体群の変動とその保全策 ○藤井暁彦、道山晶子((財)九州環境管理協会)、関根雅彦(山口大・理工)	02-3-10 ダムサイト法面における在来木本類の播種および表土を用いた緑化対策の事例 ○野口宏((独)水資源機構、高橋洋一((前)財)水資源協会)、宇田友紀子、中西収((株)環境総合テクノス)、松井宏光(松山東雲短期大)
16:30	02-1-11 手賀沼におけるリンの日変動と、物理環境との関係および藻類増殖 ○篠原隆一郎、磯部雅彦(東大院・新領域創成科学)	02-2-11 演題未定 ○Rotaquio, Eutiquio Jr. de Leon(IDEc, Hiroshima Univ)	02-3-11 森林表土を利用した法面緑化の施工事例 ○中村剛、向井殿陽平、谷口伸二(日本植生(株))
		応用植物 (大澤啓志・日大)	河川の物理環境と生物との関係2 (山田浩之・北大)
16:45	02-1-12 環境配慮型直立護岸—有機泥と鉄鋼スラグ混合ピオトップ形成による生物浄化効果に関する数値モデル評価 ○山本民次、原田啓太(広島大・生物圏科学)	02-2-12 近畿中部自生株および流通株を用いたテイカカズラ属(Trachelospermum Lem.)の簡易同定法の検討 ○上町あずさ(平安女学院大・生活福祉)、下村孝(京都府大院・生命環境科学)	02-3-12 落差工によって形成される瀬—淵構造の特性 ○知花武佳(東大院・工)
	植生管理 (山田守・SPTec・YAMADA)		
17:00	02-1-13 クロバナエンジュ(Amoerpha fruticosa L.)が優占する法面の植生管理技術の検討 ○柏木亨(日本植生(株))、細木大輔((独)農業環境技術研究所)、松江正彦(国土技術政策総合研究所)	02-2-13 京都市上賀茂および下鴨地域でのキンモクセイ(Osmanthus fragrans var. aurantiacus)二度咲き現象の実態調査 ○下村孝(京都府大院・生命環境科学)、山本祐子(京都府大・人間環境)	02-3-13 河川縦断方向に対する瀬・淵の分布特性とその規定要因 ○岩崎敏(新潟県村上地域振興局)、丸井英明(新潟大学災害復興科学セ)、大熊孝(新潟大)
17:15	02-1-14 在来野草等を導入したシバムギ草地およびイネ科牧草法面における植生の遷移(その2) ○入山義久、高山光男、橋爪健(雪印種苗(株))、村岡哲郎((財)日本植物調節剤研究協会)	02-2-14 低温貯蔵したカエデ属種子の含水率と生存率 ○坂下史恵((株)インテリジェントテクノロジー)、福永健司(東京農大)	02-3-14 ダム切り下げによる溪流環境再生の試み ○柳井清治(北海道工大)、雨宮和夫(防災地質工業)、小林真吾(北海道留萌支庁)
			種間関係 (内田臣一・愛知工大)
17:30	02-1-15 緑化法面に侵入したクズ(Pueraria lobata)の駆除試験 ○田中淳、堀江直樹(日特建設(株))、早川信光(国土交通省中部地方整備局小里川ダム管理所)	02-2-15 緑化植物トウネズミモチの分布拡大過程 ○伊藤千恵、藤原一繪(横国大院・環境情報)	02-3-15 北海道常呂川水系サクラマスおよびアマゴの交雑と産卵状況 ○藤井真(北海道栽培漁業振興公社)、楠田聡(道立水産孵化場)、中尾勝哉・今田和史(北海道栽培漁業振興公社)、新谷康二(道立水産孵化場)、井出康郎(国交省北海道開発局)
17:45	02-1-16 地上部除去後のモウソウチクの再生と植物種組成の変化 ○鈴木重雄(立命館大・文)、菊池亜希良、中越信和(広島大院・国際協力)	02-2-16 遊休農地を利用した国内産種子の生産事例 ○渡部ユミ子(第一緑化工業(株))	02-3-16 小河川上流部におけるホトケドジョウ個体群に及ぼす種間競争の影響の推定 ○大平充(東京農工大・農)、満尾世志人(東京農工大院・連農)、土井真樹(東京農工大・農)、角田裕志(東京農工大院・連農)、千賀裕太郎(東京農工大・農)

土砂動態と生物との関係

- P1-6-1 未満砂の砂防堰堤による生息場所改変が水生昆虫群集に及ぼす影響
○久加明子(大阪府大院・理、現:新日本環境調査(株))、谷田一三(大阪府大院・理)
- P1-6-2 溪流の地形特性、微生物場構造ならびに底生動物群集の関係
○野村理絵(京大院・工)、竹門康弘・寶馨・堤大三・藤田正治(京大・防災研)
- P1-6-3 大礫河床における砂防堰堤のスリット化に伴う底生動物群集の変化
○布川雅典(専修大・北海道短期大)、菊池俊一(北大院)、原田憲邦(旭川土木現業所富良野出張所)、板谷利久・櫻井理道(株)シン技術コンサル)
- P1-6-4 山地溪流における堰堤からの土砂排出による土砂移動と流下水生昆虫の短期的応答
○五味高志(東京農工大学)、小林草平(土木研究所)、根岸淳二郎(土木研究所自然共生セ)、今泉文彦(筑波大学)
- P1-6-5 河床底質の違いによる繁殖期・ウヨシノポリの産卵床選択に与える影響
○奥田千賀子(名大・工)、小野田幸生(京大・生態研)
- P1-6-6 河道掘削に伴うシヤモの産卵可能面積の比較評価
○八神鉄彦、荒木隆、重村一馬(株)建設環境研究所新居久也、米田隆夫(北海道牧場漁業振興公社)
- P1-6-7 土砂供給量の異なる河川間で、ダム下流入支川の効果は異なるか？
○片野泉、佐川志朗、真田誠至(独)土木研究所自然共生研究セ)、土居秀幸(愛媛大・農)、根岸淳二郎、皆川朋子、萱場祐一(独)土木研究所自然共生研究セ)
- P1-6-8 樹林化が進行中の砂州内における樹木の形態と洪水冠水頻度との相互関係について
○川嶋崇之(埼玉大院・理工)、坂本健太郎、武田英祐(株)建設技術研究所)、村形和也、浅枝隆(埼玉大院・理工)
- P1-6-9 河床変動パターンに基づく砂州上植物群落のポテンシャルハビタット評価
○鎌田磨人(徳島大院・ソノテクノサイエンス)

緑化資材

- P1-6-10 熱融着性ポリエステル繊維で固化した培地で育苗した花壇苗の特性とこの苗を用いた簡易な壁面緑化の検討
○豊原憲子(大阪府環農総研)、吉川弘恭(独)農研機構近中四農研セ)、末留昇(京都農総研)、後藤丹十郎(岡山大院自然科学)、南村佐保(京都農総研)、島浩二(和歌山農総研)
- P1-6-11 熱融着性ポリエステル繊維で固化した屋上緑化基盤における一年生草本の施肥方法の検討
○末留昇(京都農総研)、長澤淳一(京都農総研)、豊原憲子(大阪環農研)、藤井一徳(みのる産業)、後藤丹十郎(岡山大院・自然科学)
- P1-6-12 土壌植栽耕の緑化基盤材としての評価に関する研究 ~軽量化及び水収支特性について~
○中村一丸(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、尾池哲郎・行平信義(田川産業(株))
- P1-6-13 施肥効果を内包した土壌植栽耕の開発
○石松一仁(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、門原洋一(樹極東技エコンサルタント)、谷山暁雄(アジア航測(株))、尾池哲郎、行平信義(田川産業(株))
- P1-6-14 エチゼンラグ類を活用した山火事跡地の森林再生
○河野修一、杉本秀樹、上野秀人、江崎次夫(愛媛大・農)、車斗松、全権雨(江原大学校山林環境科学大)
- P1-6-15 ミミズ個体数と植生および土壌環境との関係
○市川隆子、高橋輝昌、小林達明(千葉大院・園芸)

止水環境

- P1-6-16 植物種多様性のホットスポットとして機能するワンドの環境要因
○石田真也(新潟大院・自然科学、日本学術振興会特別研究員DC)、山崎祥(新潟大・農)、高野瀬洋一郎(新潟大学超域研究機構)、紙谷智彦(新潟大院・自然科学)
- P1-6-17 ため池の水生物の群集タイプは何で決まる？ 一地形、土地利用、物理構造に着目して
○赤坂宗光(国立環境研究所)、樋口伸介(神戸大・自然科学)、高村典子(国立環境研究所)、角野康郎(神戸大・理)
- P1-6-18 愛知工業大学構内における貧栄養湿地ビオトープ造成のための研究
○安藤真也・内田臣一(愛知工大・土木)
- P1-6-19 手賀沼流域に生育する水生植物の分布と景観構造の関係
○富田瑞樹、斎藤康宏、原慶太郎(東京情報大・環境情報)、林紀男(千葉県立中央博)
- P1-6-20 学校プール周囲の植生がトンボ幼虫群集に及ぼす影響に関する操作実験
○森川政人(千葉大院・園芸)、勝野武彦(日大・生物資源科学)、小林達明(千葉大院・園芸)
- P1-6-21 キタサンショウウオ産卵池の新たなモニタリング指標
○田崎冬記(株)北開水工コンサルタント)、内田泰三(九州産大・工)、梅本和延・向山貴幸・佐々木優一(株)北開水工コンサルタント)、高山末吉(釧路自然保護協会)
- P1-6-22 水草が魚類の捕食被食関係に与える影響
○中村圭吾、萱場祐一(独)土木研究所)

保全生態

- P1-6-23 谷津景観における自然再生と生物多様性保全—千葉県佐倉市における事例—
○原慶太郎、ケビン・ショート、高橋一之、下嶋聖、富田瑞樹(東京情報大)、佐倉市畔田谷津ワークショップ
- P1-6-24 多摩川におけるカワラノギク保全団体の特性
○倉本宣(明大・農)、細木大輔(国総研)、岡田久子(明大・農)
- P1-6-25 「市民・行政・研究者の協働による絶滅危惧種カワラノギクの保全活動の実践」—多摩川におけるカワラノギクの保全と復元—
○岡田久子・倉本宣(明大・農/カワラノギクプロジェクト)/カワラノギクプロジェクト
- P1-6-26 ジンリョウユリ個体群の構造と光環境
○源典子、鎌田祐輝、鎌田磨人(徳島大・工)
- P1-6-27 絶滅危惧植物ムジナモおよびその自生地の保全・再生の取り組み
○湯谷賢太郎(埼玉大院・理工)、金子康子(埼玉大・教育)、小松登志子(埼玉大院・理工)、中野忠男(羽生市ムジナモ保存会)
- P1-6-28 霧ヶ峰における市民参加型草原保全のための草原性チョウ類の指標種の検討
○熊田章子(株)地域環境計画)、栗原雅博、長内健一(霧ヶ峰ネットワーク)

植生

- P1-6-29 土地利用履歴の違いが暖温帯山地河畔林の種組成および種多様性に与える影響
○佐藤妙・宗田典久(宮崎大院・農)、伊藤哲(宮崎大・農)、光田靖(森林総研)
- P1-6-30 静岡県遠州灘海岸における海浜植生の成帯構造の成立要因
○岡浩平・吉崎真司・小堀洋美(武蔵工大・環境情報)
- P1-6-31 千葉県九十九里浜におけるクロマツ林枯損要因の検討
○梶尾健(千葉大院・園芸)、高橋輝昌(千葉大・園芸)、野原咲枝、小平哲夫(千葉県農林総合研究セ)
- P1-6-32 北アルプス・雲ノ平における植生破壊の実態と効果的な植生復元工法の検討
○下嶋聖(東京情報大)、伊藤二朗(三俣山荘事務所)、原慶太郎(東京情報大)
- P1-6-33 再造林放棄地におけるウラジロ (*Gleichenia japonica* Spr.)刈り払い後の天然更新と播種更新
○島田博匡(三重県林業研究所)
- P1-6-34 三宅島 2000 年噴火後の森林土壌の理化学性と植生回復
○戸田浩人、生原喜久雄、崔東煥(東京農工大院・農)、花岡功大(永大産業(株))、江原三恵(山梨県庁)、佐々木龍一(日比谷アメニス)、亀谷行雄(都農林総研)
- P1-6-35 雲仙普賢岳の閉塞凹地における植生推移と土砂挙動
○小川泰浩・大丸裕武・村上亘・明間民央(森林総研)
- P1-6-36 九州地域における再造林放棄地と再造林地の空間パターン比較
○高木拓也、村上拓彦(新潟大院・自然科学)、溝上展也、吉田茂二郎(九大・農)
- P1-6-37 A Statistical Analysis of Vegetation Dynamics and its Hydrological Factors
○Yun Pan, Nobukazu Nakagoshi (IDEC, Hiroshima Univ.)

植生管理

- P1-6-38 多時期 MODIS データによるイリ川デルタ植生の変動解析
○守村敦郎(人間環境大学)
- P1-6-39 静岡県菊川流域における植生の異なる休耕田にみられる動物植
○稲垣栄洋・大石智広・松野和夫・高橋智紀(静岡県農林技術研究所)、伴野正志(日本野鳥の会静岡支部)
- P1-6-40 管理停止の長期した乾性耕作放棄地の植物群落構造と管理履歴、土壌条件、景観構造の関係
○徳岡良則(独)農業環境技術研究所)、広島大院・国際協力)、楠本良延、森田沙綾香、平館俊太郎、山本勝利(独)農業環境技術研究所)、中越信和(広島大院・国際協力)
- P1-6-41 里山林の管理放棄に対する林床植物の生理生態的反応
○笠木哲也・中村浩二(金沢大)
- P1-6-42 福岡県直方市における市民参加による竹林拡大抑制と里山再生に関する研究—竹林の拡大予測と生態的手法を用いた森林管理について—
○明石隆宏(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、高嶋紀子(九州工大・工)、池田朝二(直方市市民協働課)、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博)
- P1-6-43 周辺林の竹林化がその林床植生に及ぼす影響
○堀田智洋、伊東啓太郎(九州工大・工)、明石隆宏(九州工大・工)、池田朝二、高嶋紀子(九州工大・工)
- P1-6-44 香川県直島における野生ツツジ群落を活かした景観の保全
○水本絵夢、森本淳子、中村太士(北大・農)
- P1-6-45 鳥取県奥大松を事例とした企業の CSR 活動による森林管理計画の策定手法に関する研究
○千布拓生(鳥取大院・農)、日置佳之(鳥取大・農)

ポスター発表 9月20日(土) 16:00~18:00 A棟7F

ハビタット

P1-7-1 農地景観において同所的に生息するコウモリ類3種のハビタット選択 ○赤坂卓美(北大・農)、赤坂宗光(国立環境研究所)、中村太士(北大・農)

P1-7-2 農地帯の森林における樹洞木の分布およびエゾモモンガによる冬期のねぐら利用 ○勝又聖乃、赤坂卓美、中村太士(北大・農)

P1-7-3 小規模緑な緑地における鳥類保全の可能性 ○細垣彩加(京大・農)

リサイクル資材

P1-7-4 青森県内の生物系未利用資源を活用した法面緑化資材の研究(Ⅱ) ○吉米地久美子・吹越公男(田中建設(株))・杉浦俊弘・馬場光久・小林裕志(北里大・獣医)

P1-7-5 公園に敷き均された剪定屑チップ材の分解特性と土壌の化学的性質の変化 ○佃千尋(千葉大院・園芸)、加藤陽子(千葉大・園芸)、高橋輝昌、小林達明(千葉大院・園芸)

P1-7-6 韓国におけるおが屑を用いたリサイクル緑化工法の開発 ○全権雨、金潤珍、廉圭眞(江原大学校山林環境科学大)、李鍾烈、金鎮吉(株)YEWON(開発)、江崎次夫(愛媛大・農)

P1-7-7 竹の有効利用に関する研究-竹材チップの分解特性を利用した植栽マルチング材の開発 ○高嶋紀子(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、明石隆宏(九州工大・工)、池田朝二(直方市総務課)

P1-7-8 屋上における芝生およびセダム類植栽基盤材としての軽量発泡コンクリート(ALC)廃材の利用可能性 ○藤崎健一郎、多田美波、藤木絵里子(日大・生物資源科学)、高木篤史(株)サカタのタネ、勝野武彦(日大・生物資源科学)

P1-7-9 石炭クリンクアッシュの緑化用土としての利用 ○鈴木武志(神戸大院・農)、渡邊郁夫、原昌久(関西電力株)、坂文彦、井汲芳夫、大島祥子、阿江教治(神戸大院・農)

P1-7-10 下水汚泥炭化物の緑化基盤への適用可能性 ○東海林あさこ(東京農大院・林環NPO 法人モンゴルエコフォーラム)、福永健司(東京農大・森林)、橋隆一(横浜国大院・環境)、太田猛彦(東京農大・森林)

ランドスケープ、計画

P1-7-11 Vegetation Planning of Jungnang Stream for Urban River Restoration in Seoul, Korea ○Hyo-jin LEE, Nobukazu NAKAGOSHI(IDECC, Hiroshima Univ.)

P1-7-12 Landscape Ecological Study of Dhaka City, Bangladesh ○Byomkesh Talukder, Nobukazu Nakagoshi(Hiroshima Univ.)

P1-7-13 農地と森林で構成されるランドスケープの土地利用における立地依存性解析 ○光田靖(森林総研)、伊藤哲(宮崎大)

P1-7-14 The rapid urbanization and its impacts on the Environment in Hanoi, Vietnam ○Nguyen Vu Tiep (IDECC, Hiroshima Univ.)

P1-7-15 Landscape Change and Habitat Suitability Modeling in Hanoi, Vietnam ○Nguyen Van Quang, Nobukazu Nakagoshi(Hiroshima Univ.)

P1-7-16 衛星データとGIS データを用いた現存植生予測図の作成 ○松林健一(鳥取大院)、日置佳之、長澤良太(鳥取大)

P1-7-17 国指定浜頓別クッチャロ湖鳥獣保護区における保全事業に向けて ○今野尚美、古川泰人、浜田拓、増澤直(株)地域環境計画

P1-7-18 一ツ瀬川上流部集水域の溪畔域における人為攪乱の空間分布 ○宗田典久(宮崎大院・農)、伊藤哲(宮崎大・農)、佐藤妙(宮崎大院・農)、光田靖(森林総研)

景観

P1-7-19 メッシュ分析による景観パターンの分類に関する研究 ○磯野大、伊東啓太郎(九州工大・工)、梅野岳(九州工大・工)

P1-7-20 重慶周辺における景観構造の特性とその変化 ○趙憶、富田瑞樹、原慶太郎(東京情報大院・総合情報)

P1-7-21 谷津景観保全のための景観の時空間構造解析-景観の歴史性を考慮した評価手法の検討- ○高橋一之、原慶太郎(東京情報大院・総合情報)

P1-7-22 重要文化的景観「遠野 荒川高原牧場」の景観構造 ○竹原明秀(岩手大・人文社会科学)、中澤昭典・中村正(NPO 法人都市デザイン総合研究セ)、佐藤浩彦(遠野市教育委員会)

流水環境

P1-7-23 瀬切れが回遊魚に及ぼす影響 ○小野田幸生(京大・生態研)、丸山敬、遊磨正秀(龍谷大・理工)、北船木漁業協同組合

P1-7-24 瀬切れ区間における河川動物群集の時間的変動 ○中野裕、土肥唱吾、峰松勇二、井上幹生、三宅洋(愛媛大院)

P1-7-25 筑後川上流におけるダムによる付着藻類群集の変化がアユに与える影響 ○齋藤正徳(国土交通省)、矢野真一郎、齋秀治朗、河口洋一(九大)、井芹寧(西日本技術開発)

P1-7-26 アユ、オイカワの摂餌が河床付着膜の性状に果たす役割 ○皆川朋子、萱場祐一(独)土木研究所水環境研究グループ)

P1-7-27 野外調査と水路実験から枯葉と緑葉の滞留メカニズムを解明する ○河内香織、浅枝隆(埼玉大学院・理工)、知花武佳(東大院・工)、藤野毅(埼玉大院・理工)

動物

P1-7-28 諏訪湖沿岸域におけるコガタシマトビケラ成虫の分布 ○木村悟朗(信州大・織維)、花里孝幸(信州大・山岳科学総合研)、平林公男(信州大・織維)

P1-7-29 再生氾濫原に生息する二枚貝の沈降特性に関する研究 ○辻本陽琢、林博徳、島谷幸宏、河口洋一(九大・工)

P1-7-30 再生氾濫原アザメの瀬に生息する淡水性二枚貝の分布状況と成長速度について ○林博徳、辻本陽琢、島谷幸宏、河口洋一(九大・工)

環境修復

P1-7-31 隔壁魚道ブロックの現地調査報告 ○秋野淳一、本田隆秀(共和コンクリート工業(株))、梶原誠、伊藤道郎、村松優(株)ハヤテ・コンサルタント)、小室将記(共和コンクリート工業(株))

P1-7-32 丘陵地小河川における簡易魚道を用いたホトケドジョウの遡上経路の再生 ○神谷真吾・内田臣一(愛知工大・土木)

P1-7-33 簡易魚道における効果的な堰板設置の検討 ○清水洋平・久加朋子・大澤剛士・佐々木宏展・前田知己・三橋宗弘・石田裕子(水辺のフィールドミュージアム研究会)

P1-7-34 捨土工における魚類および甲殻類の季節利用-磯径を変えた比較実験- ○大森徹治(国土交通省中部技術事務所)、佐川志朗、萱場祐一(独)土木研究所自然共生研究セ)、宇野利幸、藪田顯彦(国土交通省中部技術事務所)

P1-7-35 川と農業用排水路間に設置した小規模魚道の効果検証 ○吉田豊、久保仁志、酒井忠幸、石嶋久男(栃木県水産試験場)水谷正一(宇都宮大)

P1-7-36 水田生態系ネットワークの再生に向けたタモロコシの生活史の解明 ○田中雄一、渡部勉(愛知県農業総合試験場)、加藤宏明(愛知県知多農林水産事務所)、宮本晃(愛知県農林水産部)

P1-7-37 ネコヤナギによる緑化工法 ○帆足建八、信末洋(松本技術コンサルタント(株))

水質

P1-7-38 小型植生浮島を用いたアゼスゲの水質浄化機能の評価 ○辻盛生(小岩井農牧(株))、宮坂均、奥畑博史(関西電力(株))、山田一裕、平塚明(岩手県立大)

P1-7-39 河川付着膜の組成及び呼吸量にダムが及ぼす影響 ○葛口利貴・吉村千洋(岐阜大・工)、皆川朋子・萱場祐一(独)土木研究所自然共生研究セ)、李富生(岐阜大・流域圏科学研究セ)

P1-7-40 Downstream Changes in SPOM Sources Composition below Stable Isotope Mixing Model ○Gyoung OCK(Graduate School of Engineering, Kyoto Univ.)、Yasuhiro Takemon(Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.)

P1-7-41 北海道北部の人工湿地水質浄化施設設置による河川生態系の改善効果 ○田中祥人・山田浩之・井上京(北大院・農)、加藤邦彦(北海道農業研究セ)

P1-7-42 栄養塩フラックスの生態的コントロールによる富栄養化防止対策 ○井芹寧(西日本技術開発)

水文

P1-7-43 中国内蒙古毛烏素沙地における過放牧指標植物である牛心朴子(Cynanchum komarovii Al. Iljinski)の分布と地下水位の関係 ○大藪崇司(兵庫県立大)、戸田健太郎(大阪府大)、水野由芽(伊丹市公園緑化協会)、吉水祥平(大島造園土木)、堀川真弘(森林総研)、張国盛(内モン古農業大)、三木直子(岡山山)、王林和(内モン古農業大)、吉川賢(岡山山)

P1-7-44 サロベツ湿原におけるササ群落の拡大と水文環境 ○藤村善安(北大・北方生物圏フィールド科学セ)

P1-7-45 農業-自然流域間における泥炭地湖沼の水収支の比較 ○木塚俊和(北大院・農)、日本学術振興会特別研究員 DC)、山田浩之、平野高司(北大院・農)

植物

P2-6-1 国内採取した外来木本植物種子の発芽試験の結果 ○橋隆一(横浜国大院)、松居奈緒子(松居農園(株))、中村華子(緑化エラボ)、小川裕紀子(東京都清瀬市)、吉原敬嗣(紅大貿易(株))、福永健司(東京農業大)

P2-6-2 地域性系統の広葉樹種子利用のための一報告—13科33種の種子単位重量データ— ○中村華子(緑化エラボ)、橋隆一(横浜国大院)、福永健司(東京農業大)

P2-6-3 フクギの結実習性と果実の発育過程 ○谷口真吾(琉球大・農)、西原史子(琉球大・農)、中須賀常雄(琉球大・農)

P2-6-4 低含水率に調整したマユミ種子の発芽促進 ○福永健司(東京農業大)、五宝千嘉((株)ユニバーサル園芸社)、鈴木真次郎(東京農業大)

P2-6-5 希少種ゲンカイイワレンゲの発芽試験結果 ○岩本辰一郎(有)岩本商店、大澤啓志(日大・生物資源)、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博)

P2-6-6 埋土種子の発芽と生育 ○田中健一(日本植生(株))、河野修一、江崎次夫(愛媛大・農)、車斗松、全権雨(江原大学校山環境科学大学)

P2-6-7 埋土期間中の土壌水分が森林樹木種子の発芽率に及ぼす影響 ○山瀬敬太郎(兵庫県立農林水産技術総合センター)、関岡裕明(株環境アセスメントセ)、石坂知行(兵庫県立農林水産技術総合センター)

P2-6-8 多摩川における外来樹木キササゲ(*Catalpa ovata* G. Don)の分布と種子発芽特性 ○大原尚子(横浜国大院・教育)、芦澤和也(明治大院・農)、倉本宣(明治大・農)

P2-6-9 日本国内における北限の絶滅危惧植物ヒシモドキ(*Trapella sinensis* Oliver) ○田崎冬記(株)北開水工コンサルタント、内田泰三(九州産大・工)、林田寿文(国土交通省北海道開発局)、山純孝(北海道三祐(株))、荒瀬輝夫(信州大・農)

P2-6-10 Distribution of Edibles Wild Taro (Aroid Plant) On the Different Altitude (Shouthern Slope of Wonogiri and Pacitan Dry Land) Indonesia ○Karuniawan Wicaksono, Nobukazu Nakagoshi(IDEC, Hiroshima Univ.)

P2-6-11 伊豆大島における固有種サクウリの分布特性に関する研究 ○菊地哲理(明治大院・農)、倉本宣(明治大・農)

P2-6-12 ラン科ムヨウラン属の菌根共生の実態 ○岡山将也(鳥取大院・農)、谷龜高広(高森町蘭植物園)、岩瀬剛二(鳥取大・農)

P2-6-13 多摩川上流域の河岸の岩場に分布するユキヤナギの開花特性 ○芦澤和也(明治大院・農)、倉本宣(明治大・農)

P2-6-14 土壌塩分組成と濃度が塩生植物 *Tamarix austromongolica* N. の体内塩分組成と分泌塩分組成に及ぼす影響 ○田村悠旭(鳥取大・乾燥地研)、張文軍(内蒙古林科院)、玉井重信、山中典和(鳥取大・乾燥地研)

P2-6-15 イヌケホンダの潜在分布域と気候変化シナリオに基づく分布変化の予測 ○堀川真弘(森林総研)、村上健太郎(きしわだ自然資料館)、津山幾太郎(森林総研)、大藪崇司(兵庫県立淡路景観園芸学校)、松井哲哉(森林総研)、森本幸裕(京大院・地球環境学)、田中信行(森林総研)

P2-6-16 都市域へ移入・分布拡大したイヌケホンダ(*Thelypteris dentata* (Forssk.) E. P. St. John)のリーフフェノロジー ○村上健太郎(きしわだ自然資料館)、堀川真弘(森林総研)、森本幸裕(京大院・地球環境学)、松井理恵(株)シマフィックコンサルタンツ)

P2-6-17 都市河川におけるミズキンバイ群落および競合植物群落の生産構造 ○大澤啓志、勝野武彦(日大・生物資源科学)

P2-6-18 柏市こんぶくろ池のズミ(*Malus sieboldii* Rehd.)個体群の生態的再生に向けた遺伝的構造と形態変異の分析 ○野口敦子、野村昌史、小林達明(千葉大院・園芸)

P2-6-19 マイクロサテライトマーカーを用いた塩生植物の遺伝的多様性評価: (2) 宍道湖・中海におけるオオクグ(*Carex rugulosa*)個体群 ○大林夏湖、程木義邦、國井秀伸(島根大・汽水域研究セ)

P2-6-20 マイクロサテライトマーカーを用いた塩生植物の遺伝的多様性の評価と保全策の検討 (1) 中国・四国地方のシオクグ(*Carex scabrifolia*)個体群 ○程木義邦、大林夏湖、國井秀伸(島根大・汽水域研究セ)

P2-6-21 イノソヅジ(*Ledum palustre* var. *diversipilosum*)の遺伝的多様性におよぼす光条件の影響 ○我妻尚広、鈴木卓也、佐藤由佳、岡本吉弘(酪農大)

P2-6-22 地上型 3D レーザースキャナを用いた樹高推定のための樹木の微細形状の検出能力についての研究 ○戸田健太郎、中村彰宏、前中久行(大阪府大院・生命環境科学)、大藪崇司(兵庫県立淡路景観園芸学校)

P2-6-23 ハイパースペクトルリモートセンシングによるサクラ類の活力度評価 ○宋泳根、今西純一(京大・地球環境学)、橋本啓史(名城大)、萩原篤(京大院・農)、守村敦郎(人間環境大)、森本幸裕(京大・地球環境学)

P2-6-24 長谷川式土壌入計による測定結果の集約的表示方法 ○藤崎健一郎(日大・生物資源科学)、長谷川秀三(ジオグリーンテック(株))

海域・汽水域

P2-6-25 有明海へ飛来する鳥類相の変化について ○高尾彰(株)ブレック研究所、稲川良(千葉県銚子市)、小野勇一(北九州市立いのちのたび博)、池田元洋(九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所)、森康二郎(財)国立公園協会、松本俊信(株)ブレック研究所)

P2-6-26 リュウキュウアユ保全に向けた干潟の持つ冬季における低水温域形成機能の現地観測 ○大槻順朗(九大・工)、島谷幸宏(九大・工)、四宮明彦(鹿児島大・水産)、河口洋一(九大・工)

P2-6-27 3D レーザースキャナを用いた河口部の微地形形状の計測 ○中村彰宏、戸田健太郎、塩井景介(大阪府大院・生命環境科学)

P2-6-28 空港島建設による底質とベントス相の変化 ○梅村麻希、川瀬基弘、八木明彦(愛知工大・工)

P2-6-29 水中音響を用いたナルトビエイによる二枚貝食害の検出 ○関根雅彦、萩原淳子、藤井曉彦、今井剛、樋口隆哉(山口大)尾添紗由(美明石高専渡部守義(日本クニヤ(株)))

P2-6-30 土壌改良資材を用いた干潟環境修復技術 井芹寧、○堀田剛広(西日本技術開発)

環境学習

P2-6-31 環境学習を目的とした学校ビオトープの活用に関する研究—児童・先生・保護者の意識把握を通して— ○大村康一郎(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、大石悠乃(九州工大・工)、石橋尚子(福岡市立西新小学校)、桐原健治(福岡市南宮南小学校)

P2-6-32 京都都市域における学校ビオトープの水辺植生と管理の関係 ○吉村和也(京大院・農)、今西純一、森本幸裕(京大院・地球環境学)

P2-6-33 小学生を対象とした緑化型環境教育の展開—浜中町におけるビオトープ造成— ○内田泰三(九州産大・工)、猫本健司、干場信司、高橋励起(酪農学園大・酪農)、高井文子(霧多布温泉)、荒瀬輝夫(信州大・農)、田崎冬記(株)北開水工コンサルタント)

P2-6-34 環境学習を目的とした環境デザインと子どもの行動に関する研究 ○大石悠乃(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博)、藤原勝紀(放送大学京都教育セ)

P2-6-35 環境学習の場としての都市緑地の評価とデザインに関する研究 ○篠原徹(九大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、榎本敬子(戸畑区まちづくり整備課)

P2-6-36 環境学習を目的とした身近な自然環境の利用評価に関する研究 ○山根憲尚、伊東啓太郎(九州工大・工)、小柳智一(住友林業緑化(株))

P2-6-37 環境学習を目的とした水辺のデザインと活用評価に関する研究 ○山本礼子・伊東啓太郎(九州工大・工)、榎本敬子(戸畑区まちづくり整備課)

P2-6-38 地域振興を目的としたエコツーリズムの推進に関する研究—福岡県直方市における森林環境教育の現状と課題について— ○池田朝二(九州工大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、吉田茂二郎(九大・生物資源環境)、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博)

P2-6-39 多摩丘陵における保全教育の展開 ○倉本宣、野呂恵子(明治大・農)

外来種

P2-7-1 京都市におけるコケ植物外来種: *Tortula pagorum* (Milde) De Not. の生育分布に関する研究 ○大石善隆(京大院・地球環境学堂)、村上健太郎(きしわだ自然資料館)、森本幸裕(京大院・地球環境学堂)

P2-7-2 特定外来生物オオキンケイギクおよび帰化植物数種の分布・逸出状況の把握ー長野市の事例ー ○前河正昭(長野県環境保全研)

P2-7-3 鳥取県千代川におけるイタチハギの分布と植生 ○高木康平(鳥取大院・農)、日置佳之(鳥取大・農)

P2-7-4 外来植物群落の景観的価値に関する研究 ○山本聡、権孝妃、能勢健吉、大藪崇司(兵庫県立大学/淡路景観園芸学校)

P2-7-5 大塩貯水池における外来性二枚貝カワハバリガイの大量発生原因の考察 ○中野大助、小林卓也、坂口勇(財団法人電力中央研究所環境科学研究所生物環境領域)、松本寛(鍋川土地改良区)

P2-7-6 ブラックバスの繁殖ポテンシャルマップの作成と繁殖抑制手法の提案 ○笹田直樹、山本孝洋、白神義章、佐貫方城(株)ウエスコ) 大槻清人、小坂田堅(国土交通省苫田ダム管理所)

生息場・生育場評価

P2-7-7 流域スケールでの環境類型区分と指標群落の抽出 ○丹羽英之(京大・地球環境学舎)、三橋弘宗(兵庫県立大)

P2-7-8 河畔植生における希少種ホットスポットはどこにある?ー地形から広域的なポテンシャルを探るー ○大澤剛土(神戸大院・人間発達環境)、三橋弘宗(兵庫県立大学)、丹羽英之(京大院・地球環境学舎)、丑丸敦史(神戸大院・人間発達環境)

P2-7-9 河川最下流部の環境・生物調査による愛媛県 29 河川の集水域の評価 ○中島健吾、土肥昌吾、三宅洋(愛媛大院・理工)

P2-7-10 北部九州の河川中流域における魚類を用いた環境指標 ○巖島怜(九大・工)、島谷幸宏、河口洋一(九大院・工)

P2-7-11 トキの採餌環境としての河川の評価 ○田中亘(九大・工)、鹿野雄一、山下奉海(九大院・工)、齊藤慶(新潟大院・自然科学)、島谷幸宏、河口洋一(九大院・工)

P2-7-12 河川改修に伴う魚類群集とその生息場の時空間変動ーリバー・ランドスケープ・ユニットに着目してー ○永山滋也、中村太士(北大院・農)

P2-7-13 矢作川豊田大橋付近における現況河道に対する水生昆虫の生息環境としての評価 ○竹原茂信、内田臣一(愛知工業大学)

P2-7-14 全国レベルでの流域区分に基づく景観構造の把握 ○増澤直、伊勢紀、濱野緒彰(株)地域環境計画)

都市環境

P2-7-15 在来種草本を用いた屋上緑化に関する基礎的研究 ○松本謙史(九州工大・工)、石松一仁(九州工大院・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)

P2-7-16 北九州市における屋上緑化の実態とその可能性評価 ○池田祐介、伊東啓太郎(九州工大・工)、石松一仁(九州工大院・工)、

P2-7-17 東京都および千葉県における病院の屋上緑化の現状と施設管理担当者の意識に関する研究 ○高野麻美(千葉大・園芸)

P2-7-18 千葉県および近隣県における公立病院の緑化樹木に関する研究 ○宮下佳廣、石井麻有子、三島孔明、岩崎寛(千葉大院・園芸)

P2-7-19 傷病鳥獣保護記録からみた生物生息地としての都市環境の評価 ○梅野岳(九州工大院・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、外平友佳理(北九州市立到津の森公園)

P2-7-20 立地環境からみた住区基幹公園の機能評価に関する研究 ○西田貴紀(九州工大院・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、磯野大(九州工大・工)、森田大也(九州工業大・工)

P2-7-21 都市河川における生物生息場の創出 ○内海美沙(SAPV・大阪工大院)、土井敏男(神戸市立須磨海浜水族園)、阿部信之、草部弘明、鳥居信良、西岡利満(SAPV)

P2-7-22 LiDAR リモートセンシングを用いた都市緑地における林分材積量の推定 ○伊尾木慶子、佐々木剛(京大院・農)、今西純一、森本幸裕(京大・地球環境学堂)

P2-7-23 航空機レーザスキャナ及び近赤外画像を用いた都市緑地における葉面積指数と天空率の推定 ○佐々木剛、伊尾木慶子(京大院・農)、今西純一、森本幸裕(京大院・地球環境学堂)

P2-7-24 戸建住宅の植栽モデルプランを用いた庭木の CO2 削減効果の評価 ○吉水洋平、大藪崇司、山本聡、澤田佳宏、藤原道郎(兵庫県立淡路景観園芸学校)

P2-7-25 建築敷地緑化の違いが実在地区内の顕熱負荷に与える影響に関するシミュレーション解析 ○鈴木弘孝(財)国際花と緑の博覧会記念協会)、吉川淳一郎(株)ソフトウェア・クレイドル)

P2-7-26 藤棚の緑陰機能を用いた駐車場の熱環境改善効果の評価 ○太田垣亮(兵庫県六甲治山事務所)、日置佳之(鳥取大・農)

P2-7-27 北九州市における社寺林の分布状況およびエコロジカルネットワーク構築に関する研究 ○阪田暁(九州工大・工)、伊東啓太郎、梅野岳(九州工大・工)、橋本大輔(株)国際コンサルタント)

P2-7-28 都市域における緑地の生態学的価値評価に関する研究-都市公園の生態学的ポテンシャルについてー ○森田大也(九大・工)、伊東啓太郎(九州工大・工)、西田貴紀(九州工大院・工)、橋本大輔(株)国際コンサルタント)、磯野大(九州工大・工)、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博)

P2-7-29 異なる刈り高の芝生に接触するときの人の反応 ○李宙宮(千葉大院・園芸)、須田坂(千葉市役所)、趙炫珠(千葉大院・園芸)、藤井英二郎(千葉大・園芸)

P2-7-30 森林内の園路における光環境の違いが人の生理及び心理に与える影響 ○林透子、岩崎寛、三島孔明、藤井英二郎(千葉大院・園芸)

P2-7-31 立面緑化の見え方の違いが人の心理に与える影響について一歩行時の見え方による印象評価実験ー ○中橋洋平、岩崎寛(千葉大院・園芸)

P2-7-32 Household Solid Waste Management in Hiroshima City: Scenario Model Considering Implementation in Malaysian Cities ○SHAZWIN Taib, NAKAGOSHI Nobukazu(Hiroshima Univ.)

鳥獣害

P2-7-33 ニホンジカ不食植物を用いた緑化工法 ○石坂知行、山瀬敬太郎(兵庫県立農林水産技術総合センター)、下田康博、宗接聖史(兵庫県但馬高原本林道建設事務所)

P2-7-34 林縁を中心とした景観構造が農地依存型ニホンザルの生息地利用に与える影響 ○芝原知、望月翔太(新潟大院・自然科学)、村上拓彦(新潟大・農)

P2-7-35 景観スケールでみた農地依存型ニホンザルの生息地利用 ○望月翔太、芝原知(新潟大・自然科学)、村上拓彦(新潟大・農)

P2-7-36 出猟カレンダーを用いたニホンジカの分布拡大予測モデル ○武知宏弥(徳島大院・建設創成システム工)、鎌田磨人(徳島大院・ソシオテクノサイエンス)

緑化

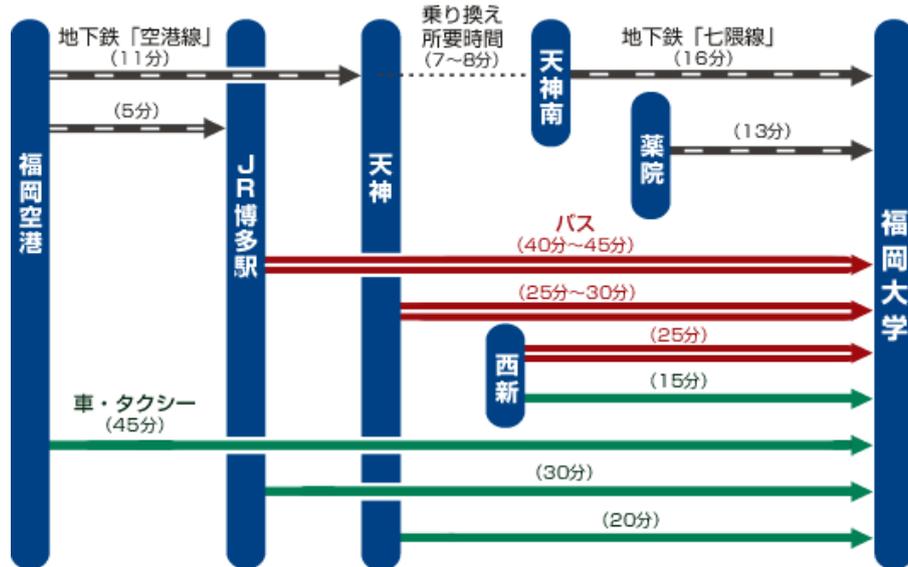
P2-7-37 奄美大島における自然環境に配慮した林道切土法面の吹付緑化 ○下園寿秋・岩智洋・図師朋弘(鹿児島県森林技術総合センター)、山元弘(鹿児島県大島支庁)、穂山浩平(鹿児島県森林整備課)

P2-7-38 根系引抜抵抗力による林野火災跡地植栽樹種の土壌緊縛作用の評価 ○山場淳史、佐野俊和(広島県総合技研・林業技術セ)

P2-7-39 地山補強土工法を活用した斜面緑地の保全 ○青木規・伊藤忍・岡本直子(財)林業土木施設研)・岩佐直人・NghiemMinhQuang・池田武徳(日鐵住金建材(株))

P2-7-40 香川県直島に生育する樹木の葉の可燃性に関する基礎的研究 ○野々村敦子、増田拓朗(香川大)

《 大会会場への交通案内 》



- 福岡大学へは地下鉄七隈線をご利用ください。福大前駅で下車、1番出口を出て左手の福岡大学正門からお入りください。(大会当日は会場への順路を示しています。)
- 会場への車の乗り入れはできません。会場周辺にコイン駐車場は多少ありますが、数が十分でないため、公共交通機関でお越しください。

《 懇親会場への交通案内 》



- 時間：9月21日（日）19:00～21:00
- 会場：西鉄グランドホテル（福岡市中央区大名 2-6-60 TEL：092-771-7171）
- アクセス：地下鉄天神駅（地下鉄七隈線天神南駅から徒歩8分）2番出口から徒歩1分
- 懇親会は事前申込が必要です。（事前申込：elr2008@civil.kyushu-u.ac.jp）

ELR2008 福岡実行委員会

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地 九州大学大学院工学研究院 環境都市部門 流域システム工学研究室

TEL：092-802-3419 FAX：092-802-3420 E-mail：elr2008@civil.kyushu-u.ac.jp